

一九七七年二月一日第三種郵便物認可

発行所 社会通信社

発行人 滝野 忠

e-mail: shakaisushin@nifty.com

東京都渋谷区本町六丁目八の二コーポ幢ヶ谷九〇四 電話(03)3337714649

FAX(03)3229915367

振替 〇〇一〇〇一九一五八四三二 労金 中央労金本店 No1154163

購読料 月額700円 6カ月前納制

〈もくじ〉

■巻頭言

「フツーに働きたい!」「フツーに生きさせろ!」

…………… 2

被災地(神戸)メーデー・アピール

「青空派」と「炎派」

編集部…………… 3

―憲法六二歳の「社説」から―

◇投稿◇

道州制導入 モデルが社保事務所

…………… 4

社会保険事務所の現状

新たな政治文化を体現

相田 邦夫…………… 5

―貧しくとも心豊かな国「ジバ・クーバ」―

労働組合をつくりました

タイヨウデンシ分会…………… 6

―僕の一月・二月の給料は、八万円ほど―

総選挙は「マゴマゴ」決戦

…………… 7

判決は六月十一日

増田 都子…………… 8

―犯罪都教委、三悪都議とのたたかい―

「共産主義を清算すること、それが私の大望でした」 訳・富山 栄子…………… 11

―トルコでのゴルバチョフの演説―

恐慌、資本主義、そして社会主義

滝野 忠…………… 13

読者からのおたより…………… 14

旬刊 社会通信

NO. 1049

二〇〇九年六月一日号

二〇〇九年六月一日発行
(毎月一日・二五日二回発行)

「フツ―に働きたい!」「フツ―に生きさせろ!」

被災地（神戸）メーデー・アピール

二〇〇九年の年明け、東京・霞ヶ関のまん中にある日比谷公園に出現した「年越し派遣村」。雇用の調整弁として企業から切り捨てられ、住む場所も失った五〇五人の労働者と、一六九二人のボランティアが集まり、四四〇〇万円を超えるカンパと支援物資が寄せられました。いま労働の現場では、「雇用の底」が抜けていること、労働者たちがまさに「生きていけない」という現実を直面していることが、誰の目にも明らかになったのです。

小泉純一郎さん! あなたは二〇〇一年五月七日、首相としての所信表明演説で、明治初期の長岡藩の「米百俵」の話を持ち出し、「今の痛みを耐えて、明日をよくしよう」と、国民に構造改革に向かう心構えを説きました。そして、その方針は確実に実行されました。

大企業は「いざなき越え」という好景気に湧き、大金持ちは金融投機に血道をあげ、笑いが止まらないほどの大もうけができました。しかし、私たちには何がもたらされたでしょう。

①この一〇年で、勤労世帯の生活水準は平均して一割ほど下がりました。非正規労働者は六〇〇万人以上増え、全雇用者の三分の一を超えました。年収二〇〇万円以下の労働者が一〇〇〇万人に達しています。

②失業者の八〇%近くが、雇用保険給付を受けられません。健康保険の無資格世帯は三五万を上回り、病気になっても医療を受けられない子どもたちまで生まれています。生活保護水準以下であるのに生活保護を受けていない世帯が八割を超えるといえます。

③二〇〇八年の自殺者は三万二二四九人。ついに一一年連続で三万人を超え、世界でもトップランクの「自殺大国」の地位を保っています。一〇年間で、この兵庫区、長田区、そして中央区の全人口にあたる人々が、自ら命を絶つ国です。

小泉さん! あなたにとつて、この「痛み」は予想できなかったことですか? それとも想定内のことだったのですか?

私たちは今年、湊川公園の被災地メーデーに集まり、「フツ―に働きたい!」「フツ―に生きさせろ!」と声をあげています。

国際労働機関ILOが、「八時間労働制」を定めた第一号条約を採択したのは一九一九年のことでした。「一日のうち八時間は働くために、八時間は睡眠のために、そして残りの八時間は人間らしく生きるために」―労働者たちの願いが国際労働条約になりました。

それからすでに九〇年が過ぎ、その間に社会の富は一〇〇倍にもなりました。「フツ―に働きたい!」―私たちは無理を言っていますか!

私たちは生きています。そして生きる権利があります。これを支えるのが社会と政

治の仕事のはずです。さあ、仕事をしてもらいましょう！

胸を張って！ 堂々と！ 声をあげよう！

「フツに働きたい！」「フツに生きさせろ！」

「青空派」と「炎派」

憲法六二歳の「社説」から

九条そして二五条 日本国憲法六十二歳の誕生日は青空であった。青空を続けたいとするメディア、戦火の炎で日本を染めたいとするメディアはそれぞれに恒例の憲法記念日「社説」を掲げた。全国紙社説の「青空派」の見出しは「忘れたくないもの」（東京）、「貧困、人権、平和を考える」（朝日）、「もつと魅力的な日本に―軍事力の限界見据え」（毎日）、これに対し「炎派」は「憲法審査会を早期に始動させよ」（読売）、「脅威増大を見過ごすな―九条改正し国の安全を守れ」（産経）、「日本国憲法を今日的視点で読み返そう」（日経）。

この見出しからも分かるように、「青空派」は、格差、失業等の生活不安から小休止に追いこまれた改憲論に「憲法二五条と向き合う時代」（朝日）、「生存権の保障―憲法一三条、二五条」（東京）を強調する。これに対し毎日アメリカの政治学者で次期駐日大使ジェフ・ナイの「ソフトパワー」論を強調する。「炎派」は「与野党（自民・民主）に敵基地攻撃論」（産経）、「民主党には、小沢代表、鳩山幹事長をはじめ、改憲派の議員は多い」（読売）、「集団的自衛権をめぐる憲法解釈を見直し、そのうえで自衛隊の国際協力活動を包括的に規定した一般法の制定が要る」（日経）と主張する。

ここからみえる特徴は「青空派」は改憲運動の小休止に心やすめ、次に襲い来たるだろう大嵐に眼をつぶっていることであり、「炎派」はとつぜんの変調にとまどいながら次の動きに準備していることだ。それは産経「社説」冒頭に示されてある。

「憲法施行から六二年が経過した。その間、大規模な戦争に巻き込まれなかったことをすべて『平和憲法』の恩恵と考えるのは幻想にすぎない。国際情勢や安全保障環境は大きく変化しており、北朝鮮が日本列島越しに弾道ミサイルを発射したのはつい一カ月前だ。」

北の発射予告に応じて、日本はミサイル防衛（MD）による警戒態勢をとった。これまでの準備が結実したものだ。しかし、予告なしの発射はないのだろうか。中距離ミサイルが多数飛来した場合はどうなるのか。国の守りの限界を突き付けられたといつてよい。

問題の根幹は、自衛隊を軍隊と認めず、国家の防衛を抑制してきたことにある。憲法9条がその限界を作っているのは明らかだ。確実な脅威の高まりに、憲法見直しを避けてはなるまい。」

とまどう高校生 興味深い調査が発表された。日高教が四月二三日発表した「〇八高校生一万人憲法意識調査」がそれだ。結果は、九条を「変えない方がよい」六〇・九

% (前回〇四年、四三・九%)、「変える」一一・五% (同、一一・九%)、「わからない」二七・二七% (同、四三・三%)と、「変えない」が一七%もふえた。なぜふえたのかは「わからない」が急増、「考え」る時代に入ったことによる。

九条改憲反対の理由に「戦争への道をひらく」七三・二%、「世界に誇る憲法」一四・〇%というが、自衛隊と九条では「違反」一九・三% (前回、二五・七%)、「違反しない」二二・八% (同、二四・八%)、「どちらでもない」三三・七% (同、三二・〇二%)、「わからない」二二・七% (同、一八・九%)。この傾向は大人も同じ。「護憲勢力」が政治意識・文化をつくることだ。
(編集部)

◇投稿◇

道州制導入 モデルが社保事務所

社会保険事務所の現状

社会保険事務所の現状について報告します。

記録問題から昨年は年金特別便、本年四月からは年金定期便が発送されていますが、毎月多くのお客様が訪れています。

また、団塊の世代の人が六〇歳に達するため年金請求に訪れ、窓口要員は五人ですが一二〇〜一三〇人の人がこられます。(窓口は相談員が配置され一人あたり二〇人のお客様の対応をされるとされていますが、お茶・三時十時の一休みもできない状況です) 職員も対応に窓口に出なければならぬ状況で私は食事をとるのは、午後三時すぎ四時すぎです。給付担当職員は毎日こんな状況です。

来年一月より年金機構となりますが、管理職からは年金機構に残るには、お客様第一である、月曜日はお客が多いから相談員を休ませるな、お前は窓口相談の責任者だから休むなど言われています。

私は記録が新たにでてきた時の年金額の増額の試算の仕事もありますが、試算は午後五時一五分までの勤務時間にはできないため、夜八時までコンピュータが稼働している時間、あるいは朝八時からお客様が少ない九時三〇分位までの時間を活用して行っている状況です。毎日一二時間勤務です。所長よりある時、本日は通夜があるので一八時に帰宅すると申し出たら、帰宅するなど言われたこともあります。

道州制が導入されようとしていますが、社会保険はそのモデルではないかと考えます。

一度全職員を解雇し、また雇用する雇用される人は上司のいうことをなんでも聞く人、マネジメント能力に優れている人(Ⅱ部下に無理をさせても仕事をさせる人)であり、実際の仕事をする人は、民間からの有期雇用者とするというものです。

国鉄の民営化よりもひどいものです。

道州制の真の目的は、活動家の排除、ものいわない労働者づくりだと考えます。その下準備として人事評価を導入されていると考えます。

道州制についての記事をのせられるようお願いします。

(新潟・T)

新たな政治文化を体現

―貧しくとも心豊かな国”ピバ・クーバー―

メーデー

昨今、音楽家等が多数キューバを訪問している。ラテンアメリカのサルサ等のリズムが人気ようだ。

テンポの速い音楽で歌い、踊り、笑うキューバ人の姿から想像もできないくらい、ユックリと時間が流れている。仕事も街中の歩く姿もユックリ、買い物袋を持って談笑している首都・ハバナの市民。この時間の使い方は、小生が子供の頃の昭和二十年代の日本に良く似ている。カリブ海の珊瑚礁に浮かぶ島、キューバは南国特有の花が咲き乱れている。新社会党がくれた褒美の旅（四月二十七日～五月五日）を満喫した。

メーデー会場に入ってまず目に飛び込んできたのは小高い丘の上にホセ・マルティ（一九世紀末、キューバ独立の英雄）の白い石像と向かい側のビルにはゲバラの似顔絵。その前の革命広場には音楽隊とマルクス、エンゲルス、レーニンをはじめキューバの歴代の党、労働運動の指導者の写真。その間の道路を先頭集団が行き過ぎて最後尾の旗の波まで二時間、三十五万人の行進は圧巻の一言に尽きる。ちなみにキューバの人口は約一千万人、かつては百万人規模でおこなわれた。

あいさつは労働組合本部書記長だけ。ラウル議長は、時々帽子をとり手を振り行進団を激励するだけ。わが国で矛盾が噴出している医療、教育、農業を重視した五十年で自信に満ち溢れている。ひるがえって、日本のメーデーは労働者を鼓舞できていない。全労働者が参加できるメーデーはいつの日になるのだろうか。

ゲバラは生きています

二十世紀最高のゲリラ戦士は医者である。チェ・ゲバラは、フィデルに「別れの手紙」の中で、「僕になんらかの誤りがあったとするなら、それはシエラ・マエストラの初期の頃、君に十分な信頼を置かなかったことと、指導者並びに革命家としての君の資格をさほど早く理解しなかつたことだ」と自己批判をしている。極めて明解にフィデルに信頼を寄せている。これはあとで聞いたことだが、ベネズエラでチャベスが大統領に当選した一九九九年、ベネズエラ大学で演説したカストロに、聴衆から「ゲバラはどこにいる？」とヤジ、カストロは「ここにいる。私の言葉の中にいる」と。チェとカストロはマルクスとエンゲルスと同じ。フィデルは卓越した指導者であり、二十世紀中の革命家・指導者の中でも抜きん出ている一人である。

メーデー会場のゲバラの似顔絵。サンタ・クララのゲバラ廟のゲバラの像。Tシャツのゲバラの顔。絵葉書やキーホルダーに付いているゲバラの顔。ポスターのゲバラの顔々。数えあげればきりが無いほどゲバラに溢れている。観光客用に？だから、その事からチェ・ゲバラは生きていますと思っただけではない。

IKAPで聞いたギターとバイオリンの音色、特に二曲目の悲しくも壮大・荘厳な

メロデーは一体なぜか。今、キューバの音楽にこういうものがあるのかと驚いた。また、五人のキューバ人の釈放を求めて闘っている話。街の中で見た大型看板の「ヒトラーとブッシュ」に並んでキューバ人テロリスト「ポサダ・カリレス」をキューバに引き渡せとアメリカに要求している事。ゲバラと共に闘った兵士の話では、革命と社会主義の体制を守りきる思想闘争の重要性。核廃絶と共に武器、兵器をなくさなければならぬ。だからと言って帝国主義に対して無防備になるわけにいかないという話、等々を聞きながら武力革命の中にも平和革命にとつての意義を思い出せるし、革命精神をどう今日的にキューバから学びとるか教えられたと思っている。

具体的にはファミリードクター診療所、リハビリテーションルーム、産婦人科等の地域診療所、また、ラテンアメリカ医科大学の見学説明を受け、医者であるゲバラがフィデル・カストロに託しただろう生命の大切さを重視した医療政策をはじめ教育・農業の充実ぶりからみて自信となっている。そこにこそゲバラが若き日、中南米をバイクで旅をし、見た経験が生かされているし、アルゼンチン人のゲバラがキューバ革命に参加した意味がある。キューバ人の生活の中にゲバラは生きていると感じた。様々なゲバラ像があっても良い。問題はわれわれがどう学びとるかである。

大臣よりホテルマンの月給が多い

最後に「所変われば」のいい話を紹介。

早口に聞こえるスペイン語に合わせているのではないだろうが、テンポの速い音楽、リズムで歌い、踊り、笑う姿が印象的である。南国特有なのだろうか、明るく人なつっこい人々である。ホテルに着いた夜のロビーでの歌と踊り、翌日の昼食時のバンドは、旅のさわりであった。

大臣や医者よりもホテルマンの月給が最近多くなっているのは、チップ制が認められてからと聞いた。日本とは比較にならないが格差や矛盾も所変わればである。

貧しくも心豊かな国「ビバ・クーバ」
(新潟県三条市 相田邦夫)

労働組合をつくりました

―僕の一月・二月の給料は、八万円ほど―

はじめまして！ 姫路ユニオン・タイヨウデンシ分会 分会長の宮本と申します。

タイヨウデンシは、姫路と竜野に工場があり、携帯電話の表面の印刷や自動車部品の成型品の仕上げなどを行う会社で、僕は竜野でエンジニアを務めています。

昨年（〇八年）一〇月から仕事が急に少なくなり、一月から「今日は昼まで」「明日は休み」など、会社の都合で時間調整や休業が増え、社員も次々と解雇されていました。

正社員と言っても役職以外は時給制で、一番高い人でも九二〇円、低い人で七五〇円です。もともと二〇万円もなかった給料が、会社の都合で働く時間が減らされ、生活をするのも困難な状態に追い込まれました。

「これでは生活ができないじゃないか」と社長に抗議に行くと、「お前は価値がない」などの人権侵害を受け、腹が立ち、どうしたらいいか悩み、インターネットで労働組合と言うものを知りました。同時に、神戸新聞にも電話して、こうした労働実態を伝えました。

同じ竜野工場で働く名定さんと解雇を言われていた松下さんとで相談し、一二月二日、タイヨウデンシ労働組合を結成し、要求書を提出しました。内容は、法律を守れということが中心でした。そして、この要求が認められなければ一二月二四日午後より、無期限ストライキを敢行すると、突きつけました。ところが、会社はスト回避の段取りをしまい、ストは不発に終わってしまいました。

一月三日、はじめての交渉で会社は、労働基準法で決められていることすら「できない」と回答し、「嫌なら会社を辞めればいい」などの不誠実な態度に終始したため、自分たちの力だけでは解決できないと思い、神戸新聞社の記者からユニオンを紹介してもらいました。

ユニオンの方から、「規約もない。組合費も決まっていない。誰が組合員かもわからないのに、ストライキか」とびつくりされましたが、こうして姫路ユニオン・タイヨウデンシ分会が誕生することになりました。

一月二六日、出勤する従業員にビラを配り「組合ができました」と宣伝。ユニオンの方が、社員と間違つて社長にビラを渡すハプニングもありましたが、あらためて会社「組合結成通知」と「要求書」を提出しました。今日まで二回の交渉を行い、休業補償の支払い、雇用保険の加入、未払い残業の清算、健康診断の実施、有給休暇の付与などの法違反は正すことができました。しかし、まだ改善するところは山ほどあります。僕たちの最大の要求は、賃金体系をつくり、月給制にさせることです。

僕は、会社に入社して五年になりますが、時給九〇〇円です。入社してから一年も満たない人が月給制で手取り二〇万円以上支給されたり、アルバイト・パートの人が正社員の時給より上だったり、入社してから一度も昇給のない人もたくさんおられます。僕の一月・二月の給料は、八万円ほどしかありませんでした。これでは、子供にご飯を食べさせることもできません。

一日も早く賃金体系をつくらせ、安定した生活をしたいと思います。

社長は僕に「価値がない」と言いましたが、組合活動を通じて「人のために、価値のあること」をこれからもして行きたいと思えます。

(タイヨウデンシ分会委員長 宮本)

総選挙は「マゴマゴ」決戦

民主党と自民党は「働く者」より財界・資本を中心に考える保守政党、自民を兄とすれば民主は弟だ。九月はじめにまでにせまった衆院選で、自民が勝とうが民主が勝とうが、「働く者」の生活に本質的に変わりはない。それが米国に典型的な二大政党制に他ならず、「働く者」がたとえ民主に票を投じ政権交代がなるとせよ、民主党

が「働く者」を搾取する仕組みを複雑化させるだけだ。

民主は「政権奪取可能」と思い込んでいる。二代目、三代目のアホウな首相、議員連中が政治不信をかきたて、「自民より民主の方がましでは?」「自民におきゅうをすえることも必要」との世論が、資本主義体制の枠にとっぷりはまり、消費至上主義の片棒をかつぎつづけるマスメディアによってつくられた結果である。

民主にとって、三ヶ月以内にせまった衆院選挙はどんな意義をもつか。勝てば政治権力を手に納めるばかりか、政権を組織し自民の解体傾向を促せる。民主の政権願望とは裏腹に、「政権交代」は容易じゃない。民主の議席は一一三だから単独過半数の二四一には倍増以上の一二八ふやすことが必要。比較第一党でも最低七〇八〇が必要となる。この時、政治は「大連立」ぶくみが予想される。

敗ければ民主は「解党」状況になる。それは、民主が資本の意をもつとも重視する若手グループ、これまでかたちだけ資本に反対してきた旧民主党、旧社会党のグループ、階級協調を第一としてきた旧自民、そして市民派グループがバラバラになる。こうした思想・イデオロギーの違いに加え、大臣願望者が平気で政党を乗り変えられるのが保守二党政治体制でもある。

小沢が代表を辞任した。古い体質の小沢流「改革」論が西松で自縄自縛となった。代表選に名乗り出たのは幹事長の「異星人」、そして四年前の郵政解散で大敗北し、代表を解任された「愚直人間」岡田である。勝負は最初からわかっていた。権力闘争はまず組織内で闘われる。鳩山は己れの派閥をもつ、それを小沢が支援する、旧社会・旧民主は労働組合・連合との関係で鳩山支持に動く。マスメディアは「岡田の方が新鮮」と、岡田の肩をたたいてみせたが、代表選は国会議員だけとなった。

民主にとって天下分け目の関ヶ原となる衆院選は、秒読みの段階。アホウ首相は外交にうつつをぬかしてはいるが、「バカヤロー解散」がいつあるかは分からない。毎日のようにおこなわれるマスメディア主導の世論調査におのき続けるのが民主党、そして自民党。民主は「簡便に」と五月一六日に党首選。多くの意見を聞いていれば、党内は分散、やかましくなり、バラバラになりかねない、と。

次期総選挙「マゴマゴ」選挙となる。麻生太郎は吉田茂元首相、そして鳩山由紀夫は鳩山一郎元首相の孫である。吉田は自由党、そして鳩山は民主党で一九四〇〜五〇年代はじめ政治権力を争った。それから五十年、歴史はくり返される。

判決は六月十一日

―犯罪都教委、三悪都議とのたたかい―

私は、扶桑社歴史教科書&侵略否定妄言都議への批判を中学生に教えたことで都教委による超! 不当免職処分を受け、この「取り消し要求」裁判を闘ってきました。

三月五日は三年にわたる、その裁判の結審の日でした。お忙しいところ、傍聴者の方でほぼ満席にしてください、たいへんありますがどうございました。三悪都議のためにスパイにきた品性下劣な右翼も一人いました、デマ宣伝能力に長けているらしいの

で私の意見陳述を正確に伝える能力はないでしょうね。

この裁判官に対して私の「処分取り消し」判決を求める署名へのご協力も多数いただき、たいへんありがとうございます。実は、私は今年に入ってからには都議会請願にエネルギーを取られ、実質、去年の終わりの二ヶ月間しか取り組めなかったのですが、東京全労協に結集している東京清掃組合、東水労はじめ、全国の国労闘争団の方々と多数の個人の方のご協力のおかげで、団体署名二〇五、個人署名約六一〇〇筆を、同時に提出することができました！

この闘いは「侵略否定の歴史偽造勢力との闘い」をその本質とするものですから、ハルピン七三一部隊シンポでの中国人研究者の方々の署名、ソウル歴史NGO大会での韓国人研究者・市民の方々の署名、また、在豪日本人太平洋戦争研究者の方が呼びかけてくださったのオーストラリアからの署名も合わせると約六五〇〇筆となり、国色豊かなものとなりました！

判決日は六月一日（木）一六時一〇分から七〇五号法廷です。「免職に当たっては特に厳密・慎重な考慮を要する」という最高裁判例が確立していますから、被告の都・区教委の証人七人全員が「何も調べてなかった」ことを証言したことを考えれば「特に杜撰、軽率な考慮」で免職にした都教委の処分は、取り消されて当然のもですが・・・これは裁判官の歴史認識についても証明するものとなるでしょう。

以下、一三〇ページに及んだ最終準備書面の最初の部分をご紹介します。

準備書面・概容 教え子達の声

本件における審理において、原告の教え子である〇〇証人は、原告が教師として不適格であるとして分限免職処分とされたことに対する考えを問われ、

「当時の先生の、本気で、本音でぶつかってくるといふエネルギーというのはずがないと思うんです。みんな、そういう先生の姿を見て、ちよつとずつそういう姿を感じていたと思うんです。」

なので（紙上討論授業を）続けられたことだと思ふので、別にやめたいとみんなが言えばやっていなかったと思うんですけれども、だんだんと意見とかが濃くなってきたりして、三年生なんかのときはみんなしつかりした意見を書いていると思うので、そういうのは先生のエネルギーとか情熱を持って続けてくれないとできなかったことだと思ふので、今、社会人になってから、改めて先生の授業を受けたいなと思ふことも一杯ありますし、先生は教壇に在るべき人なんだなということ強く思います。」

と述べ、中学三年生という大事な時期の二学期になって突然、原告という教師を失った千代田区立九段中学校の当時の卒業生は、――

「・・・この前の休み明けテストも一〇〇点でした。これは本当に増田先生のおかげです。私は、社会があまり好きではなくて、歴史も興味を持てなかったのですが、増田先生の紙上討論をしている内に、みんなの意見をきいて自分もしつかりした意見が持たいたいと思うようになり、積極的に勉強するようになりました。・・・こうして考えて見ると増田先生の授業や紙上討論が、私のこれからの人生に大きな光を作り出

してくれたのかも知れません。先生が九段中からいなくなってしまうから、ずっとずっと、いつ帰ってこられるのかなど、いつも待っていました。でも、結局最後まで先生のあの笑顔を見ることができないと知り、とても悲しくなりました。……」

「・・・紙上討論は、文章が苦手な私にとって、とても辛いものでした。戦争や原爆のビデオを見たりして、涙した事もありました。でも、その時は大変でも、今振り返ってみると。紙上討論のお陰で、自分の意見が言えるようになり、友達の考えを知る事ができました。あれらのビデオを見たお陰で、教科書では学ぶことのできない真実を知る事ができました。先生の授業で無駄になった事は一つもありません。一年半という短い期間しか授業を受けられな（か）ったのはとても残念ですが、この貴重な体験を大切に、将来、自分の子供にも真実を教えられる先生のような人間になりたいと思います。」などと、原告への想いを綴っている。

このような原告への教え子たちの想いを見るとき、原告が、まさに、教育の本質的要請である「子どもとの間の直接の人格的接触」（旭川学テ判決）を通じて、生徒たちにかげがえのないものを育てていったことは誰の目にも明らかであり、原告は教育の本質に適う真の意味での「教師」であると言えることができる。

憲法、一九四七年教基法違反

二 しかるに、被告東京都教育委員会は、かかる原告に対して「教師不適格」の烙印を押しただけで、原告を教壇から追放した。

被告都教委が、その理由としたのは、結局のところ、原告の一枚にわたる教材プリント中のわずか一、二行にすぎない表現のみであり、これを捉えて、原告を戒告処分にした上、長期研修を強制して教壇から外したあげく、ついには免職処分として、原告から教壇を奪い去ってしまったのである。

何故なのか？ この疑問は、本件審理を通じて明らかとなった。

それは、石原都知事を頂点とする一部右翼都議（古賀都議ら）と彼らにおもねるだけの都教委が、原告の教育実践を快く思っておらず、原告を公教育の場から追放する機会を狙っていたから、という一言に尽きる。

そこには、一九四七年教育基本法前文が掲げる「われらは、個人の尊厳を重んじ、真理と平和を希求する人間の育成を期するとともに、普遍的にしてしかも個性ゆたかな文化の創造をめざす教育を普及徹底しなければならない」という崇高な理想の一片も存在しない。あるのは、教育基本法が厳に禁ずる、「政治」が「教育」を支配しようとする「不当支配」だけである。このようなことがまかり通れば、子ども達に信頼される教師、おかしいことをおかしいと言える教師は公教育の場から追放され、残るのは国家意思を伝達するだけの教師か、「もの言わぬ」教師だけとなるであろう。

それは、まさに天皇崇拜、軍国主義という国家意思を子ども達に注入するだけの場であった戦前の「教育」の姿にほかならない。私たちは、このような理不尽を許してはならない。原告を教壇に復帰させることは、日本国憲法下における司法の責務である。

（増田 都子）

「共産主義を清算すること、それが私の大望でした」

—トルコでのゴルバチョフの演説—

私の大望は共産主義、すなわちすべての人々に覆いかぶさる独裁主義を清算することでした。この使命を果たすことで私を支え、積極的に後押ししてくれたのは妻ライサでした。ライサは私よりもはるか以前からこのような考えを持っていました。これを実行するには主要な地位に着かないかぎり、不可能だと私は理解しておりました。

妻は私が最高位に登りつめるため、熱心に動きまわりました。西側世界と実際に出会ったときには、私の決心はすでに永遠についていました。私はソビエト共産党とソ連邦の全機構を破壊しなければならないと決めていました。また、私はこれを他の社会主義国でも行わなければならないと思いました。私の理想は社会民主主義の道です。ただこの制度だけがすべての人々に恩恵があります。私はこれを追求しなければならぬと思いました。

同じ考えの友人を、私はヤコブレフとシェワルナーゼに見つけました。この二人こそ、ソ連邦の解体と共産主義の敗北に貢献したといえます。

共産主義のない世界ははるかによりものになるでしょう。二〇〇〇年以降、世界はずっとよくなるでしょう。さらに発展し、繁栄するはずだからです。しかし、これに反対して闘おうとしている複数の国があります。中国はその一つです。天安門広場で抗議運動があったとき、私は北京にいました。そのとき私は中国の共産主義がつぶれるだろうと本当に思いました。私は中国指導部に抗議する人たちに話しかけたいと強く要請しましたが、許可されませんでした。中国で共産主義が打倒されれば、世界はもっと暮らし向きがよくなり、平和への道に進んでいくことでしょう。

私はソ連邦を救済したいと思いましたが、それは社会民主主義の枠組みにおいてだけです。これは実現できませんでした。エリツインは権力を望み、民主主義についても、私がやろうとしていることも何もわかりませんでした。私たちは民主的なソ連邦が権利と自由をもってほしかったのです。

その後、エリツインはソ連邦を破壊しました。当時、私はクレムリンにいませんでした。すべての新聞記者たちが私に「声をあげて泣きますか？」と質問しました。私は、泣きはしませんでした。なぜなら、私はソ連邦と他の欧州の社会主義国すべての共産主義を破壊するために最大限を尽くしたからです。私は落胆しませんでした。なぜなら、私は自らの主要目的—すなわち、欧州の共産主義の敗北—を成し遂げたとわかっていたからです。しかし、全世界で民主主義と自由へよりすみやかに移行を図るため、アジアでも共産主義を敗北させなければならぬことを理解しなければなりません。

ソ連邦の清算は米国にとって恩恵はありません。私が独立主権共和国共同体と呼びたかった強力な民主国家(旧ソ連邦)が、今はないからです。私は課題を全部達成することはできませんでした。今では小国はすべて、援助に対して米国に感謝しています。私は共産主義という災いがない中で、米国と旧ソ連邦がパートナーであるよう望んでいました。そうすれば、この二国は世界を支配する国になったことでしょう。民主主

義への道は長いものでしょう。しかし、急速にやっけて来ています。全世界は共産主義の最後の残存物を打ち破らなければなりません！

これはトルコ・アンカラでゴルバチョフがアメリカン大学のセミナーにゲストとして招かれたとき、複数の新聞社がインタビューしたときのものである。これはチェコ共和国の「ディアローグ」紙に出版された。

〈協力〉

「ツースター・コンパス」紙、トロント二〇〇〇年二月 ミハイル・ゴルバチョフ
(訳・富山栄子)

恐慌、資本主義、そして社会主義

ゴルバチョフとカストロ

富山栄子さんが「国際政治資料No.1、〇八年九月」で紹介しているミハイル・ゴルバチョフの演説『共産主義を清算すること、それが私の大望でした』(本誌に資料として掲載)は、ソ連という巨大国家、東欧社会主義国家群がなぜ一挙に雪崩(なだれ)のように崩れたかを検証する上で短いがじつに興味深い。なぜなら社会主義国家の最高権力者が、「共産党・共産主義を清算すること」を目的に共産党書記長になったというのだから。ゴルバチョフは権力の基盤である共産党をつぶした。巨大国家・ソ連崩壊の謎は一挙に証かされたのである。

それに対してキューバは「思想の種を播け」「良心の種を播け」「思想闘争は引き続き前進する」とおしすすめ、いつアメリカにつぶされるかと思われ続けた五十年に、「新しい政治文化」「新しい人間」をつくり出していた。ここにキューバが生き残った謎がある。

新自由主義的グローバリゼーション

ソ連崩壊は世界情勢を一挙に変えた。これまで資本主義の自由な行動の手を縛ってきた力がなくなり、「二極」がアメリカ「一極」にとって代わられた。世界市場はアメリカを中心とする帝国主義国家が独占することとなった。「新しいグローバル化」、新自由主義的グローバリゼーションの進展である。グローバル化とはなにか。カストロは「世界を支配するのは資本主義のイデオロギーであり、新自由主義的なグローバル化の基準と法則だ」と次のように述べる。

「私たちの観点からすれば、グローバル化は、誰かの気まぐれではない、誰かの発明でもありません。グローバル化は歴史の法則なのです。生産力の発展の結果であります。現代の科学技術の異常なまでの発展に至っては、この言葉の原作者である(人間の能力に絶大な信頼を置いていた)カール・マルクスさえおそらく予想外だったでありますよう。」

「新自由主義の理論家は、途上国のみならず多くの先進国にあっても、これまで深

刻な失業問題を解決できませんでした。多国籍企業と巨大企業が牛耳る世界においては、それすら不可能です。市場の鉄則と（ますます虚実が錯綜しつつある）競争のパートナーがそれを許しません。それはともかく、一体誰が誰と競争しているのか？ 吸収合併された独占的大企業対従来型の巨大企業との競争です。世界のどこにも、この競争ゲームに参入できるような企業はありません。最新技術を持つ産業は豊かな国の独占で、ジーンズやTシャツ、衣類、靴などの日用品を製造するのは第三世界の労働者ということになります。」

「新自由主義グローバリゼーションとは、あらゆる国家を、とりわけラテンアメリカ諸国を私有財産化しようという願望なのです」

ソ連は資本主義がふりまく誇大宣伝、腐敗しか生まない消費主義文明にまどわされ、自壊したのです。とりわけ共産党中枢部が！

資本主義の法則を知る

そして今、ふたたび世界情勢に大きな変化が訪れた。

世界が恐慌という「幽霊」に襲撃され、資本主義社会のあり方が揺れ動いていることだ。一九九〇年代前後の社会主義世界体制の崩壊は、資本家と資本に支えられる国家を差配する政治家たちに①計画化による社会主義経済は破綻、②市場経済こそが唯一の経済体制、③資本主義は市場を管理・統制する技術を完成したと錯覚させた。そこに、突然の市場の反乱、大恐慌の再来である。

こんな時、われわれにとつて最重要な課題はなにか。資本主義の本質を宣伝すること、資本主義文化の腐敗と退廃をあげくこと、そしてマルクス・エンゲルスがうちたてた思想の種を播くことだ。恐慌という現象が理論を生活で示してみせてくれているのだから。

恐慌は資本主義という剰余価値、企業の最大限利潤を求め、競争する社会ではかならず起きる。なぜか。資本主義社会では生産物は商品として生産される。商品はお金（貨幣）と交換され価値を表現される。売りと買いの分裂・対立である。貨幣は商品の売りと買いを媒介する機能だけでなく商品流通の発展とともに支払い手段としての機能を持つようになった。現金決済でなく〇月〇日までに支払いますとの約束手形だ。手形を切った企業主に不安がある時、その手形は事前に割り引かれることはない。それとは逆に安全とみなされる手形は次から次へと流通し、信用をふくらませていく。百万円の価格を持つ手形が一千万円を信用創造するというようにである。

資本主義はその発展とともに個別資本の蓄積・集積から、社会的な遊休資金を集め大きな企業を運営する株式会社を生んだ。資本は「社会的」資本となり、資本家は「経営者」となり、株主の意向に沿う経営を仕事とする他なくなった。株主は配当を求め、配当のためには最大限の利潤追求が至上命題となる。「優しい」経営者は、重役の座から追い落とされる。それが資本主義社会の法則である。

現代の自由主義は反動

よくいわれる新自由主義、市場万能主義はこうした資本主義の一つの現れにすぎぬ。マルクス・エンゲルスの時代、自由主義が保護貿易主義が大きな論議になった。当時は資本主義の生成期で、マルクスは自由貿易主義も保護貿易主義も資本主義を發展させたいとする資本家間の競争。したがって労働者にとってはどちらも同じ。資本主義の發展で労働者階級がふえること、資本主義の矛盾の激化の中で労働者の階級への形成こそが大事と説いた。どの道をとろうとも資本主義には恐慌は不可避であり、恐慌は革命への大きな客観的条件をつくると考えた。

マルクス、エンゲルスの考えどおり、恐慌時そして戦争の混乱期に革命情勢、革命が起こった。最たるものがパリ・コムミュンだ。マルクスは『フランスの内乱』にその教訓を明らかにした。その教訓をロシアに生かしたのがレーニンで、一九〇四年二月革命とソビエト、ソビエトを中心にロシア革命に備えた。第一次世界大戦は「パンと平和」をロシア国民に強制、労働ソビエト發展を背景に『帝国主義論』、『国家と革命』が著される。両著はロシア革命を予知して書かれている。『帝国主義論』では、カウツキーの「帝国主義は政策、その政策を変えられる」との主張に、レーニンは「帝国主義は資本主義の反動そのもの」「ひっくり返すには国家権力の奪取以外にない」とし、『国家と革命』では、「プロレタリア国家とはいかなるものか」と、新しい時代の国家を説いた。どちらも理論的かつ実践的な著であった。

ロシア革命後、支配階級は学習した。とりわけ第二次世界大戦後がそうである。政・労・資の協議会もさくに全力をつくしたばかりでなく、生産性向上運動の提起で政府が中に入り、労・資の和解を求めた。「生産性三原則」による世界経済發展であった。

(滝野 忠)

◇ 読者からのおたより ◇

時間内組合活動禁止 公務員バッシングの一環として、一昨年から時間内組合活動が交渉を除き禁止されました。そのため時間外はもちろんのこと、休日出勤や年休によつて組合業務をこなしています。そんなこともあり新しい担い手がなかなか育ちません。道州制など自治体労働者への攻撃がますます強まることが予想されるなか、なさない話しです。

(東京・M)

編集部より 職場内権利は大昔に帰ったかの感があります。これもまたそうですね。
キューバの謎 第一〇四七号「巻頭言」の二つの謎、その後者についての問題意識をもつて、新社会党キューバ訪問に参加した。行動日程の「革命体験者と面談」の中で、謎の一部が語られていた。

(新潟・S)

編集部より キューバの小旅行、楽しかったようですね。「滝野さん、よかった」と他にも連絡もらっています。今号では同じ新潟から参加された相田邦夫さんからのレポート掲載です。

誕生会 先日の誕生会、気づかいありがとうございます。五月十日、九条についてのお気持ち、聞かせてくださいませ。

(茨城・W)

編集部より ますますのご活躍に、私の方こそ励まされ、元氣もらいました。
減量成功 ごぶさた申しわけありません。減量に成功して血圧正常、血糖値正常、脂肪肝からの脂肪が消え、内臓脂肪もなくなりました。腹筋はコチコチになっています。

(東京・K)

編集部より 過日お会いした時、スリムになったなと感じました。そうだったんだ。インストラクター業でもはじめればいかが。